

第 25 回「秋田県内企業の景気動向調査」結果

(平成 29 年 8 月調査)

～景況感は 2 期ぶりに改善するも、先行きは慎重な見通し～

【 調査の要旨 】

- **県内企業の業況**は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値(前年同期比)」が 5.4(前回調査比 12.0 ポイント上昇)と 2 期ぶりに大きく改善し、平成 26 年 5 月調査以来 13 期ぶりに「良い」超となった。「各種 D I 値(前年同期比)」はすべての項目で改善し、「売上高」と「営業利益」が「良い」超に転じている。
- **業種別**に「自社の業況 D I 値(前年同期比)」をみると、すべての業種が改善し、製造業、卸・小売業、サービス業は「良い」超に転じた。すべての業種が「良い」超となったのは、平成 26 年 5 月調査以来 13 期ぶりである。
- **地域別**に「自社の業況 D I 値(前年同期比)」をみると、県北が▲6.9(前回調査比 8.0 ポイント上昇)、中央が 14.9(同 13.1 ポイント上昇)、県南が▲5.2(同 12.3 ポイント上昇)といずれも改善した。中央は 3 期連続の「良い」超で、県北は依然「悪い」超ながら 4 期連続の改善となった。
- **先行き見通し**は、「自社の業況 D I 値(前年同期比)」が▲8.1(今回調査比 13.5 ポイント下落)と悪化が見込まれている。依然として業況の先行き不透明感は強く、慎重な見通しとなっている。

【 特別調査 】

- **今年度の設備投資動向**について尋ねたところ、「実施する(した)」と回答した企業の割合は、40.8%(昨年度比 6.2 ポイント低下)と、3 年ぶりに低下した。一方、「実施しない」と回答した企業の割合は 42.0%(同 2.6 ポイント上昇)となった。
設備投資を「実施する(した)」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1 社あたり平均投資額(予定含む)は 5,960 万円で、昨年度の調査時点と比べて小幅ながら 250 万円減少し、昨年度に続き 2 期連続での減少となった。

平成 29 年 8 月

株式会社フィデア総合研究所

目次

I. 県内企業の業況.....	1
1. 概況.....	1
2. 業種別の動向.....	2
(1)業種別の概況.....	2
(2)業種別DI値の動向.....	3
① 建設業.....	3
② 製造業.....	4
③ 卸・小売業.....	5
④ サービス業.....	6
3. 地域別の動向.....	7
(1)地域別の概況.....	7
(2)地域別DI値の動向.....	8
① 県北.....	8
② 中央.....	9
③ 県南.....	10
II. 景気の天気予報図.....	11
III. 特別調査.....	12
1. 設備投資動向.....	12
2. 設備投資金額.....	14
3. 設備投資目的.....	15
<参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>.....	17
<参考資料Ⅱ：調査の概要>.....	17

Ⅰ. 県内企業の業況

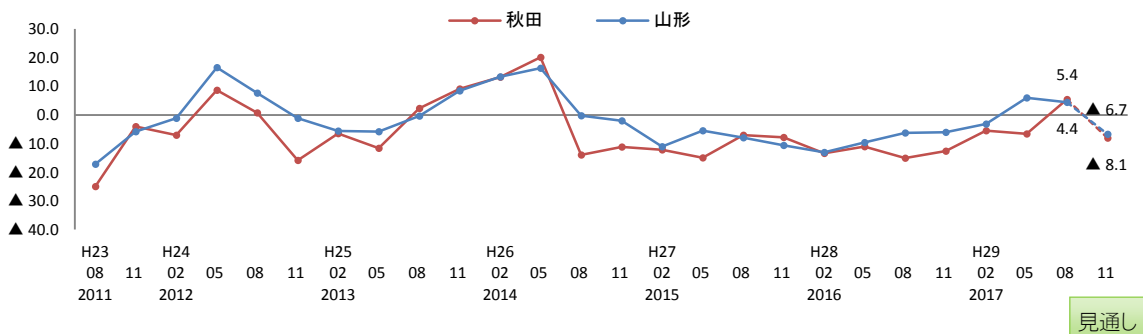
1. 概況

～ 景況感は 2 期ぶりに改善するも、先行きは慎重な見通し ～

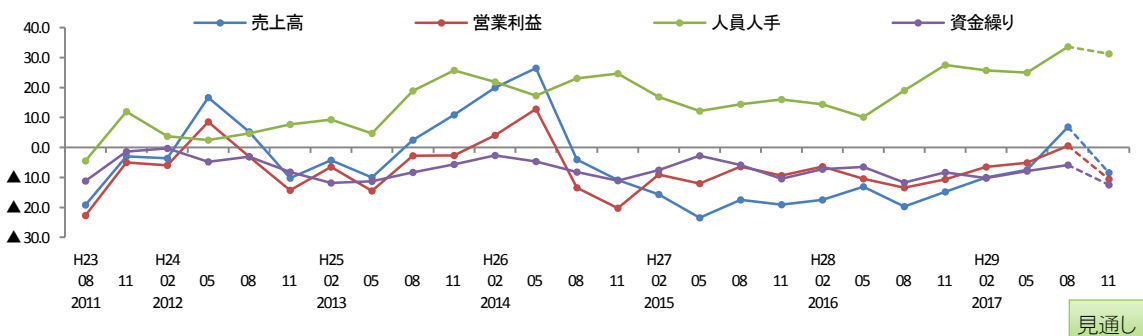
県内企業の業況は、自社の業況判断を示す「自社の業況 D I 値(前年同期比)」が 5.4(前回調査比 12.0 ポイント上昇)と 2 期ぶりに大きく改善し、平成 26 年 5 月調査以来 13 期ぶりに「良い」超となった。「各種 D I 値(前年同期比)」はすべての項目で改善し、「売上高」と「営業利益」が「良い」超に転じている。また、「人員人手」は 8.6 ポイント上昇しており、さらに人手不足感が強まっている。

先行き見通しは、「自社の業況 D I 値(前年同期比)」が▲8.1(今回調査比 13.5 ポイント下落)と悪化が見込まれている。依然として業況の先行き不透明感は強く、慎重な見通しとなっている。

図表 1 全業種「自社業況 D I 値(前年同期比)」の推移



図表 2 全業種「各種 D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況 D I 値

全業種 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H 28.08 (n=411)	▲ 15.1	▲ 4.1	▲ 17.9	▲ 19.7	▲ 13.4	19.0	▲ 11.7
H 28.11 (n=414)	▲ 12.6	2.5	▲ 15.5	▲ 14.8	▲ 10.7	27.5	▲ 8.3
H 29.02 (n=401)	▲ 5.5	7.1	▲ 14.0	▲ 10.0	▲ 6.5	25.7	▲ 10.2
H 29.05 (n=393)	▲ 6.6	▲ 1.1	▲ 21.2	▲ 7.4	▲ 5.1	25.0	▲ 7.9
H 29.08 (n=407)	5.4	(12.0)	▲ 11.7	6.8	0.5	33.6	▲ 5.9
前回調査比	-	-	-	(14.2)	(5.6)	(8.6)	(2.0)
先行き見通し	▲ 8.1	-	-	▲ 8.4	▲ 10.5	31.3	▲ 12.5
今回調査比	(▲ 13.5)	-	-	(▲ 15.2)	(▲ 11.0)	(▲ 2.3)	(▲ 6.6)

※ 「売上高」 D I 値は、建設業の「完成工事高」を含んだ値。

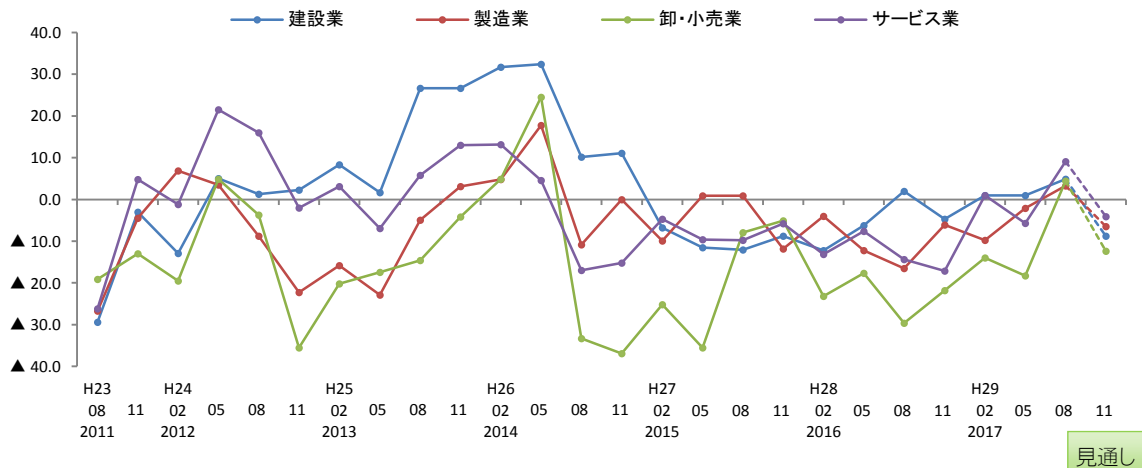
2. 業種別の動向

(1) 業種別の概況

業種別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、すべての業種が改善し、製造業、卸・小売業、サービス業は「良い」超に転じた。すべての業種が「良い」超となったのは、平成26年5月調査以来13期ぶりである。

業況の先行き見通しは、すべての業種で悪化が見込まれている。

図表3 業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

業種別 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	全業種	建設	製造	卸・小売	サービス
H 28.08 (n=411)	▲ 15.1	2.0	▲ 16.5	▲ 29.6	▲ 14.4
H 28.11 (n=414)	▲ 12.6	▲ 4.7	▲ 6.1	▲ 21.8	▲ 17.1
H 29.02 (n=401)	▲ 5.5	1.0	▲ 9.8	▲ 14.0	1.0
H 29.05 (n=393)	▲ 6.6	1.0	▲ 2.1	▲ 18.3	▲ 5.7
H 29.08 (n=407)	5.4	4.9	3.3	4.4	9.1
前回調査比	(12.0)	(3.9)	(5.4)	(22.7)	(14.8)
先行き見通し	▲ 8.1	▲ 8.8	▲ 6.5	▲ 12.4	▲ 4.1
今回調査比	(▲ 13.5)	(▲ 13.7)	(▲ 9.8)	(▲ 16.8)	(▲ 13.2)

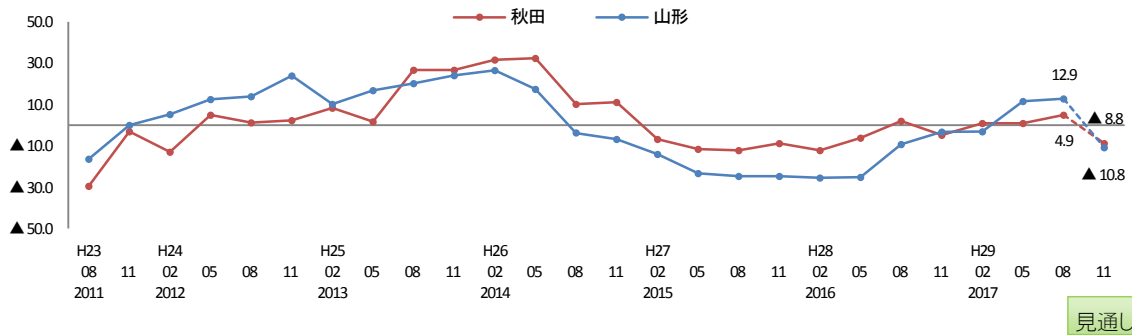
(2)業種別D I 値の動向

① 建設業

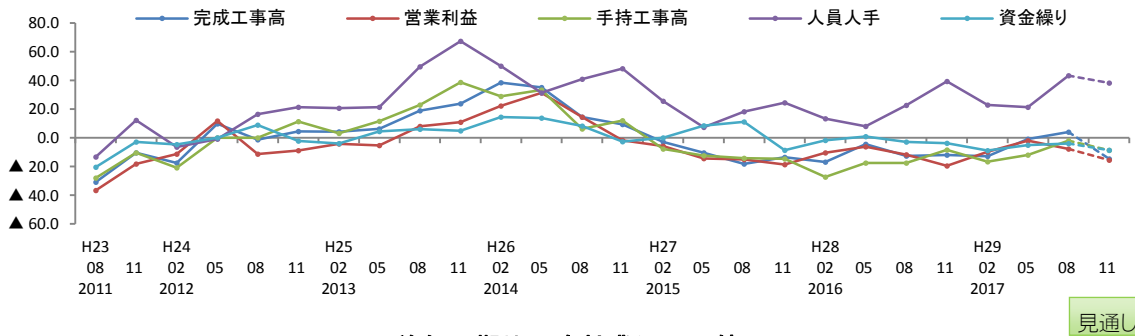
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は4.9(前回調査比3.9ポイント上昇)と2期ぶりに改善し、3期連続で「良い」超となった。「各種D I 値(前年同期比)」をみると、「人員人手」が大幅に上昇し人手不足感をさらに強めているほか、「完成工事高」「手持工事高」「資金繰り」の3項目も改善した。一方、「営業利益」は3期ぶりの悪化となった。足元は一般住宅がやや減少しているものの、公共工事が増加基調で推移している。

先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲8.8(今回調査比13.7ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表4 建設業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表5 建設業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

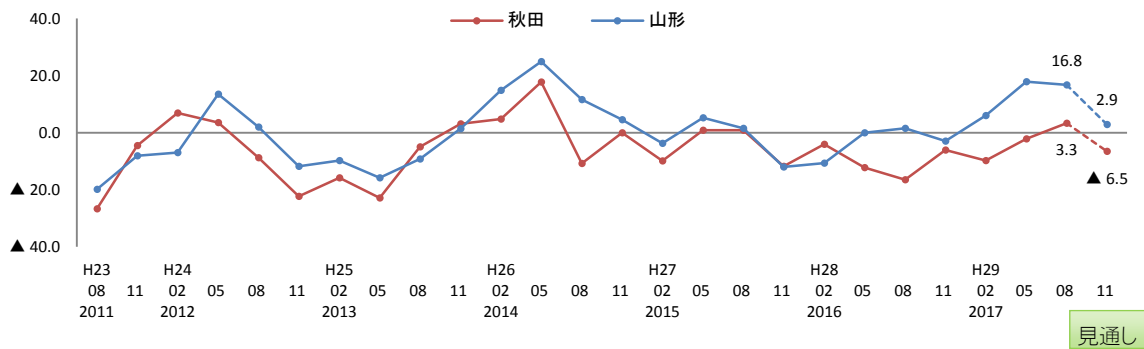
建設業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			完成 工事高	営業 利益	手持 工事高	人員 人手	資金 繰り
	前回調査比	前回調査予測						
H28.08 (n=102)	2.0	8.2	▲29.2	▲12.8	▲11.8	▲17.7	22.6	▲3.0
H28.11 (n=107)	▲4.7	▲6.7	▲13.8	▲12.1	▲19.6	▲8.4	39.3	▲3.8
H29.02 (n=101)	1.0	5.7	▲14.0	▲12.9	▲9.9	▲16.8	22.8	▲8.9
H29.05 (n=99)	1.0	0.0	▲24.7	▲1.0	▲2.0	▲12.1	21.2	▲5.1
H29.08 (n=102)	4.9	(3.9)	▲11.1	3.9	▲7.9	▲2.0	43.2	▲4.0
前回調査比	-	-	-	(4.9)	(▲5.9)	(10.1)	(22.0)	(1.1)
先行き見通し	▲8.8	-	-	▲14.7	▲15.7	▲8.8	38.2	▲8.8
今回調査比	(▲13.7)	-	-	(▲18.6)	(▲7.8)	(▲6.8)	(▲5.0)	(▲4.8)

② 製造業

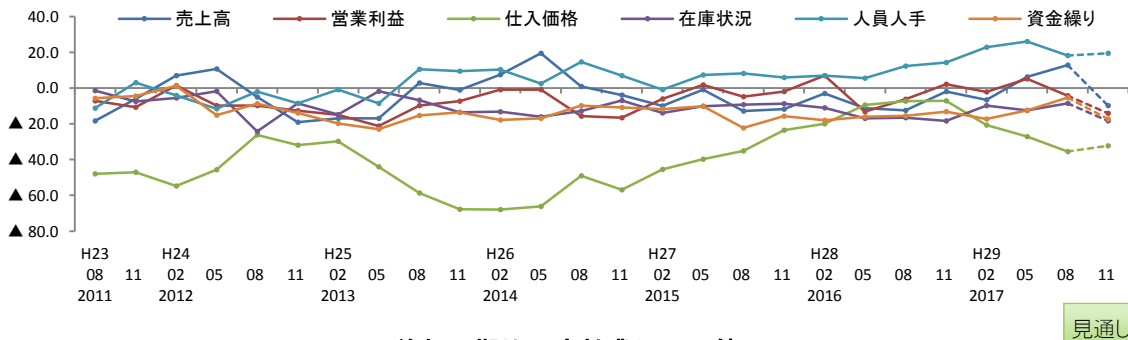
「自社の業況D I 値(前年同期比)」は3.3(前回調査比5.4ポイント上昇)と2期連続で改善し、平成27年8月調査以来8期ぶりに「良い」超となった。各種D I 値(前年同期比)」でみると、「売上高」「在庫状況」「資金繰り」の3項目で改善した一方、「営業利益」「仕入価格」「人員人手」の3項目は悪化した。各社のコメントをみると、原材料費の上昇を懸念するコメントが引き続き多いものの、電気機械関連など一部の製造業では回復傾向がうかがえた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲6.5(今回調査比9.8ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表 6 製造業「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



図表 7 製造業「各種D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

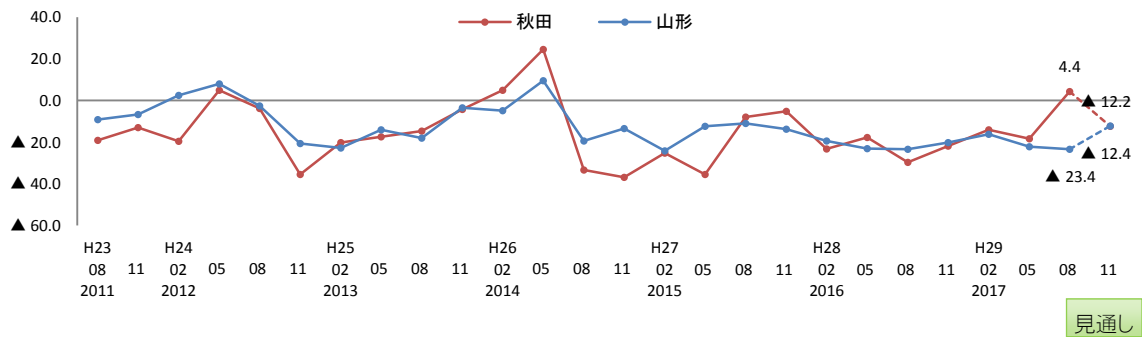
製造業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H28.08(n=97)	▲16.5	▲4.3	▲12.3	▲12.4	▲6.2	▲7.2	▲16.5	12.3	▲15.5
H28.11(n=98)	▲6.1	10.4	▲17.6	▲2.0	2.1	▲7.1	▲18.4	14.3	▲13.2
H29.02(n=92)	▲9.8	▲3.7	▲23.5	▲6.5	▲2.2	▲20.7	▲9.8	22.8	▲17.3
H29.05(n=96)	▲2.1	7.7	▲20.7	6.2	5.2	▲27.1	▲12.5	26.1	▲12.5
H29.08(n=93)	3.3	(5.4)	▲8.3	12.9	▲4.3	▲35.5	▲8.6	18.2	▲5.3
前回調査比	-	-	-	(6.7)	(▲9.5)	(▲8.4)	(3.9)	(▲7.9)	(7.2)
先行き見通し	▲6.5	-	-	▲9.7	▲14.0	▲32.2	▲18.3	19.4	▲17.2
今回調査比	(▲9.8)	-	-	(▲22.6)	(▲9.7)	(3.3)	(▲9.7)	(1.2)	(▲11.9)

③ 卸・小売業

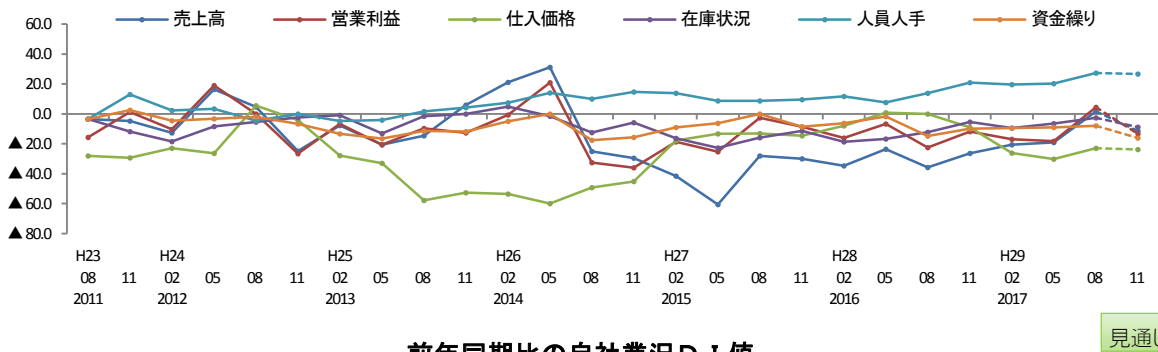
「自社の業況DI値(前年同期比)」は4.4(前回調査比22.7ポイント上昇)と2期ぶりに大幅に改善し、平成26年5月調査以来13期ぶりに「良い」超となった。「各種DI値(前年同期比)」で見ると、すべての項目が改善しており、中でも「売上高」と「営業利益」はそれぞれ20.0ポイント以上の大幅な改善となり、ともに13期ぶりに「良い」超となった。各社のコメントをみると、消費者の節約志向や慢性的な人手不足の影響が続き、全体としては横ばい圏内の動きながら、自動車販売や家電販売など一部の業種には上向き傾向がうかがえた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲12.4(今回調査比16.8ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表 8 卸・小売業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



図表 9 卸・小売業「各種DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

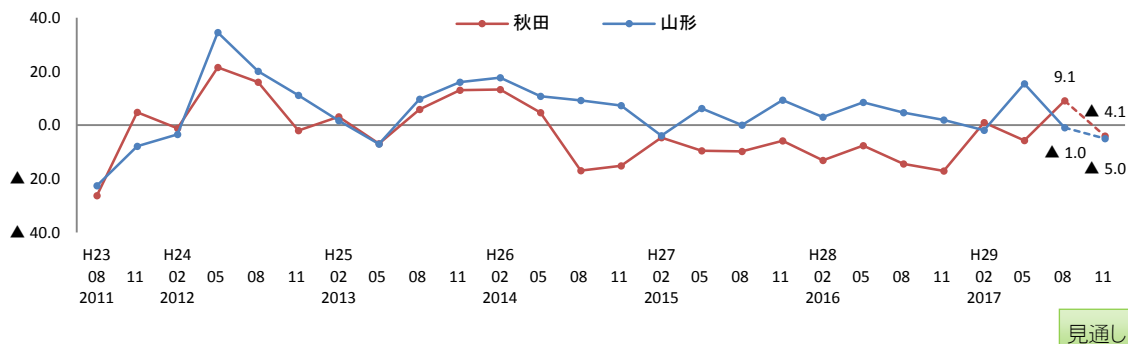
卸・小売業 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)			売上高	営業利益	仕入価格	在庫状況	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測							
H28.08 (n=115)	▲29.6	▲11.9	▲21.0	▲35.7	▲22.6	0.0	▲12.2	13.9	▲14.8
H28.11 (n=110)	▲21.8	7.8	▲17.4	▲26.4	▲11.8	▲9.1	▲5.5	20.9	▲10.0
H29.02 (n=107)	▲14.0	7.8	▲9.1	▲20.6	▲16.9	▲26.2	▲9.4	19.6	▲9.4
H29.05 (n=109)	▲18.3	▲4.3	▲25.2	▲19.2	▲18.3	▲30.3	▲6.4	20.2	▲9.1
H29.08 (n=113)	4.4	(22.7)	▲17.4	1.7	4.4	▲23.0	▲2.7	27.4	▲7.9
前回調査比	-	-	-	(20.9)	(22.7)	(7.3)	(3.7)	(7.2)	(1.2)
先行き見通し	▲12.4	-	-	▲11.5	▲13.3	▲23.9	▲8.8	26.6	▲16.0
今回調査比	(▲16.8)	-	-	(▲13.2)	(▲17.7)	(▲0.9)	(▲6.1)	(▲0.8)	(▲8.1)

④ サービス業

「自社の業況DI値(前年同期比)」は9.1(前回調査比 14.8ポイント上昇)と2期ぶりに改善し、再び「良い」超となった。「各種DI値(前年同期比)」で見ると、「売上高」「営業利益」「人員人手」が改善した一方、「資金繰り」は小幅ながら悪化となった。「人員人手」は45.5と平成23年8月の調査開始最高値を更新しており、人手不足感が一段と強まっている。各社のコメントをみると、総じてみれば需要の停滞感がうかがえるものの、観光やアミューズメント、運輸関係などの一部では改善の動きが見られた。

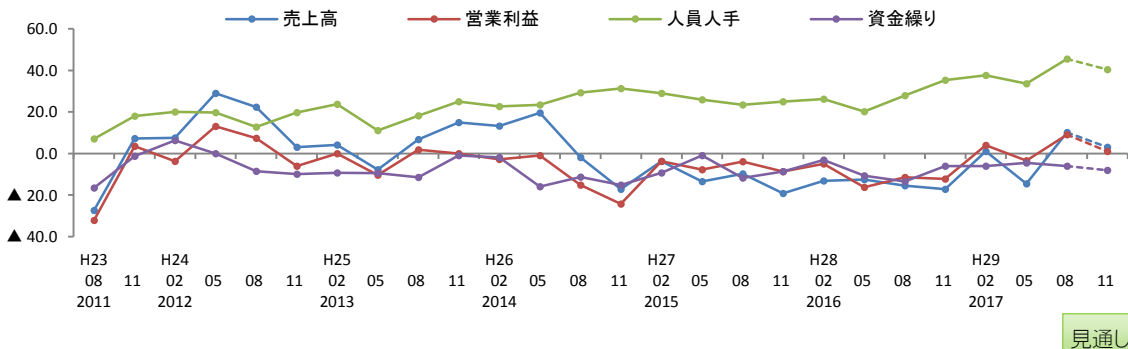
業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲4.1(今回調査比 13.2ポイント下落)と悪化が見込まれている。

図表 10 サービス業「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



見通し

図表 11 サービス業「各種DI値(前年同期比)」の推移



見通し

前年同期比の自社業況DI値

サービス業 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			売上高	営業利益	人員人手	資金繰り
	前回調査比	前回調査予測					
H28.08(n=97)	▲14.4	▲6.8	▲7.7	▲15.5	▲11.4	27.9	▲13.4
H28.11(n=99)	▲17.1	▲2.7	▲13.4	▲17.2	▲12.2	35.4	▲6.0
H29.02(n=101)	1.0	18.1	▲10.1	1.0	4.0	37.6	▲6.0
H29.05(n=89)	▲5.7	▲6.7	▲13.9	▲14.6	▲3.4	33.7	▲4.5
H29.08(n=99)	9.1	(14.8)	▲8.9	10.1	9.1	45.5	▲6.0
前回調査比	-	-	-	(24.7)	(12.5)	(11.8)	(▲1.5)
先行き見通し	▲4.1	-	-	3.0	1.0	40.4	▲8.1
今回調査比	(▲13.2)	-	-	(▲7.1)	(▲8.1)	(▲5.1)	(▲2.1)

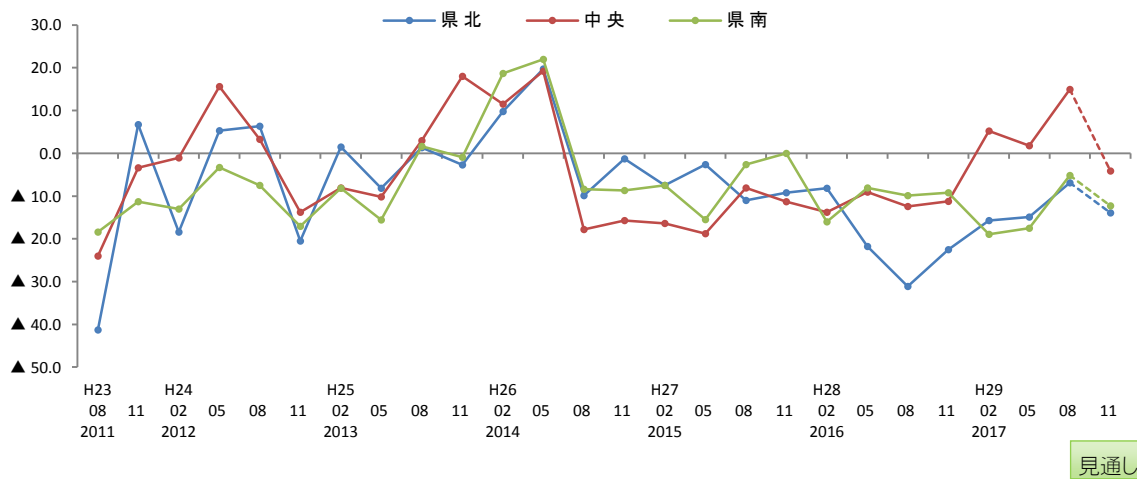
3. 地域別の動向

(1) 地域別の概況

地域別に「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、県北が▲6.9(前回調査比 8.0 ポイント上昇)、中央が 14.9 (同 13.1 ポイント上昇)、県南が▲5.2(同 12.3 ポイント上昇)といずれも改善した。中央は 3 期連続の「良い」超で、県北は依然「悪い」超ながら 4 期連続の改善となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」をみると、いずれの地域でも悪化が見込まれている。

図表 12 地域別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

地域別 調査時 (サンプル数)	自社業況 (前年同期比)			
	全地域	県北	中央	県南
H 28.08 (n=411)	▲ 15.1	▲ 31.1	▲ 12.4	▲ 9.9
H 28.11 (n=414)	▲ 12.6	▲ 22.5	▲ 11.2	▲ 9.2
H 29.02 (n=401)	▲ 5.5	▲ 15.7	5.2	▲ 18.9
H 29.05 (n=393)	▲ 6.6	▲ 14.9	1.8	▲ 17.5
H 29.08 (n=407)	5.4	▲ 6.9	14.9	▲ 5.2
前回調査比	(12.0)	(8.0)	(13.1)	(12.3)
先行き見通し	▲ 8.1	▲ 13.9	▲ 4.1	▲ 12.3
今回調査比	(▲ 13.5)	(▲ 7.0)	(▲ 19.0)	(▲ 7.1)

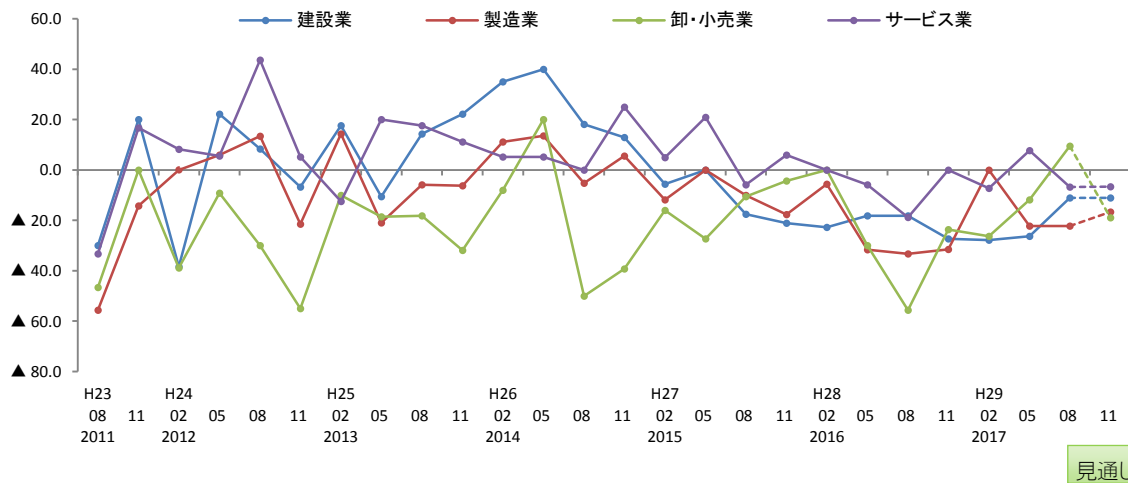
(2) 地域別DI値の動向

① 県北

「自社の業況DI値(前年同期比)」は▲6.9(前回調査比 8.0 ポイント上昇)と4期連続での改善となった。業種別では、サービス業が▲6.7(同 14.4 ポイント下落)と悪化したものの、建設業と卸・小売業では改善、製造業では横ばいとなった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲13.9(今回調査比 7.0 ポイント下落)と悪化が見込まれている。業種別では、製造業とサービス業では改善、建設業では横ばいが見込まれている一方、卸・小売業では悪化の見通しとなっている。

図表 13 県北業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

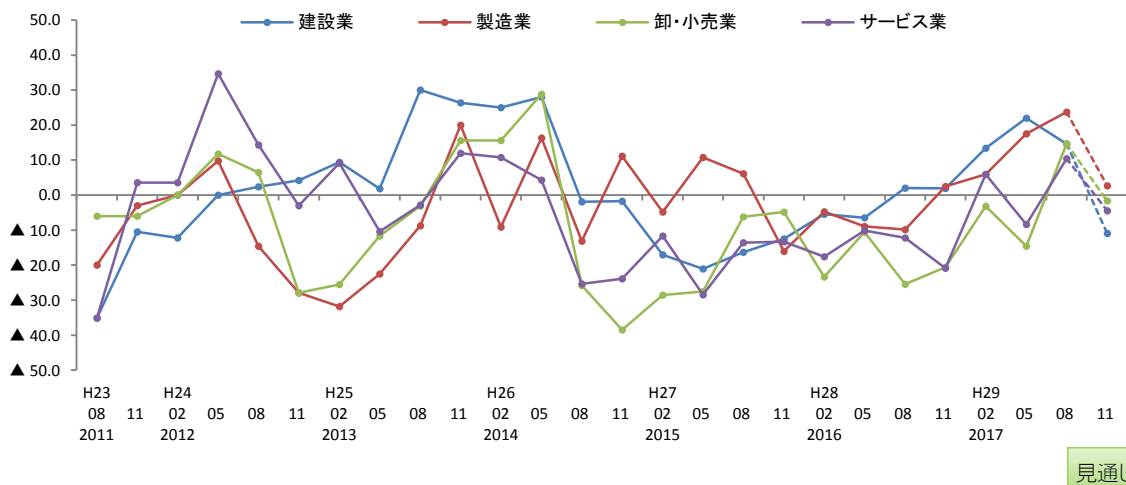
県北 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 28.08 (n=74)	▲ 31.1	▲ 18.2	▲ 33.3	▲ 55.6	▲ 18.8
H 28.11 (n=71)	▲ 22.5	▲ 27.3	▲ 31.5	▲ 23.6	0.0
H 29.02 (n=70)	▲ 15.7	▲ 27.8	0.0	▲ 26.3	▲ 7.2
H 29.05 (n=67)	▲ 14.9	▲ 26.3	▲ 22.2	▲ 11.8	7.7
H 29.08 (n=72)	▲ 6.9	▲ 11.1	▲ 22.2	9.5	▲ 6.7
前回調査比	(8.0)	(15.2)	(0.0)	(21.3)	(▲ 14.4)
先行き見通し	▲ 13.9	▲ 11.1	▲ 16.6	▲ 19.0	▲ 6.6
今回調査比	(▲ 7.0)	(0.0)	(5.6)	(▲ 28.5)	(0.1)

② 中央

「自社の業況DI値(前年同期比)」は14.9(前回調査比13.1ポイント上昇)と2期ぶりに改善し、3期連続で「良い」超となった。業種別では、製造業、卸・小売業、サービス業で改善となったほか、建設業では悪化したものの「良い」超を維持しており、4業種すべてが「良い」超となった。

業況の先行き見通しは、「自社の業況DI値(前年同期比)」が▲4.1(今回調査比19.0ポイント下落)と悪化が見込まれている。業種別でみると、すべての業種で悪化の見通しとなっている。

図表 14 中央業種別「自社業況DI値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況DI値

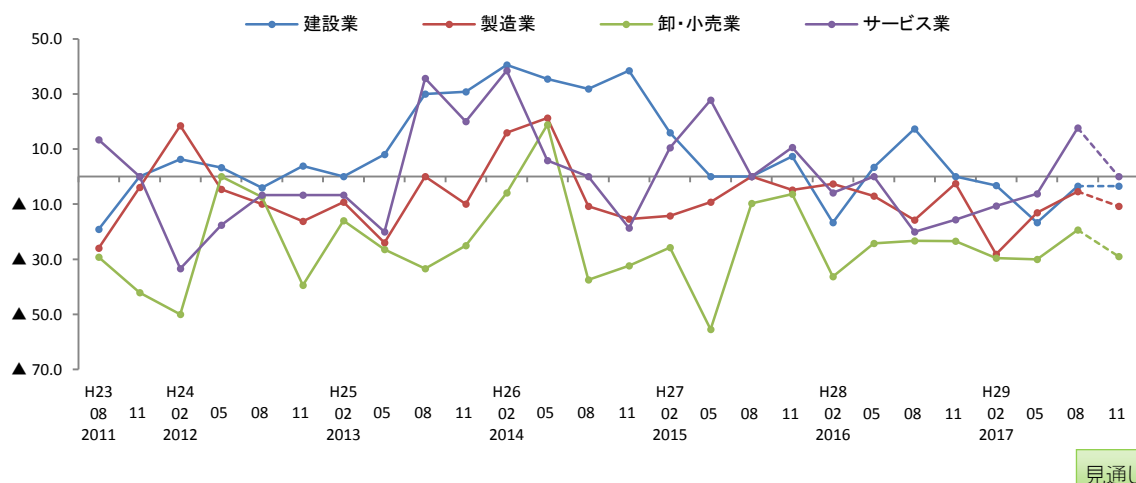
中央 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
	建設	製造	卸・小売	サービス	
H 28.08 (n=225)	▲12.4	2.0	▲9.8	▲25.4	▲12.2
H 28.11 (n=223)	▲11.2	1.9	2.5	▲20.6	▲20.9
H 29.02 (n=215)	5.2	13.4	5.9	▲3.2	5.9
H 29.05 (n=212)	1.8	22.0	17.5	▲14.6	▲8.4
H 29.08 (n=221)	14.9	14.6	23.7	14.7	10.4
前回調査比	(13.1)	(▲7.4)	(6.2)	(29.3)	(18.8)
先行き見通し	▲4.1	▲10.9	2.7	▲1.6	▲4.5
今回調査比	(▲19.0)	(▲25.5)	(▲21.0)	(▲16.3)	(▲14.9)

③ 県南

「自社の業況D I 値(前年同期比)」は▲5.2(前回調査比 12.3 ポイント改善)と2期連続で改善した。業種別にみると、すべての業種で改善しており、中でもサービス業は23.9ポイントと大幅な改善となり、「良い」超に転じた。

業況の先行き見通しは、「自社の業況D I 値(前年同期比)」が▲12.3(今回調査比7.1ポイント下落)と悪化が見込まれている。業種別では、建設業は横ばい、他の3業種では悪化が見込まれている。

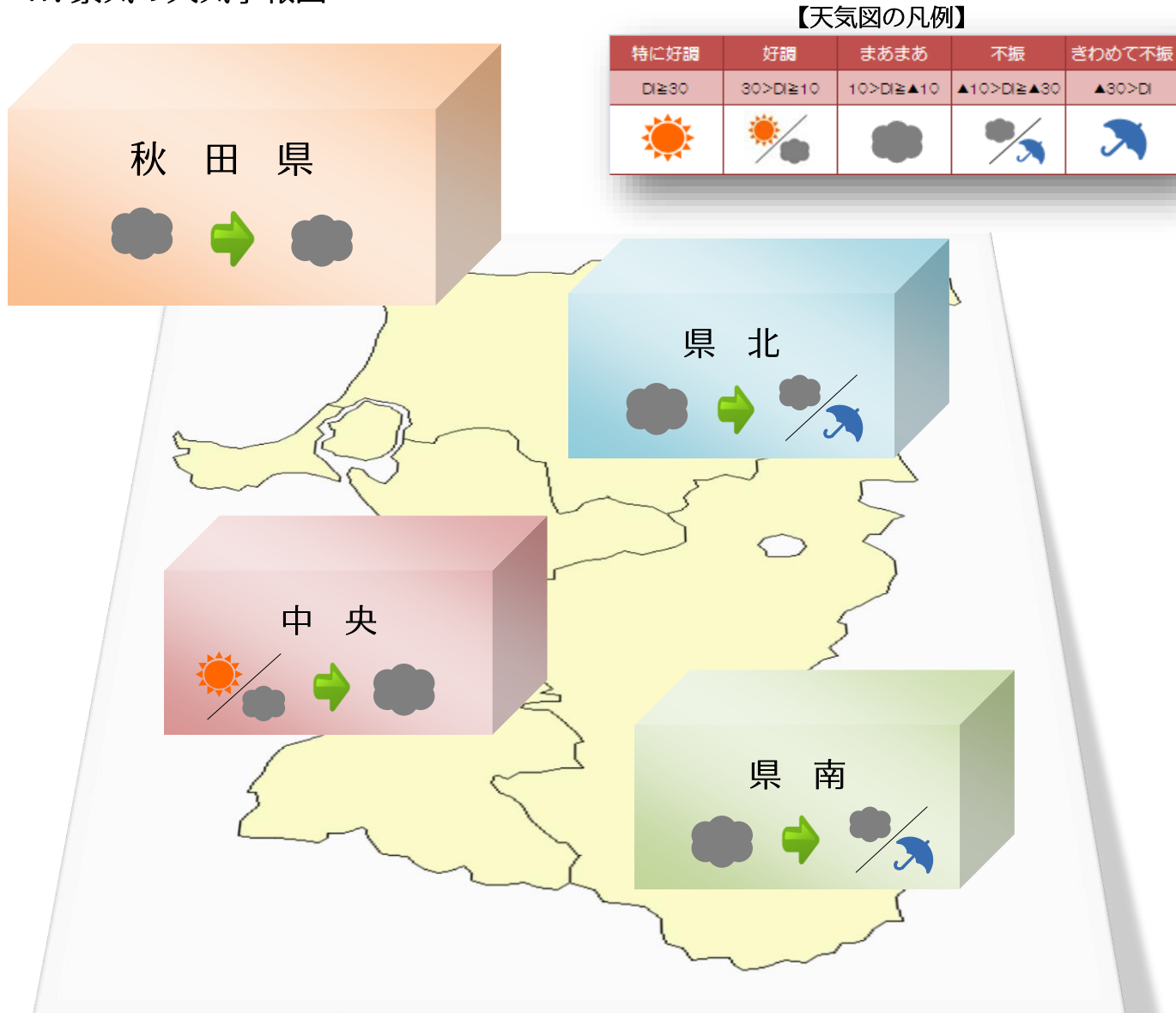
図表 15 県南業種別「自社業況D I 値(前年同期比)」の推移



前年同期比の自社業況D I 値

県南 調査時(サンプル数)	自社業況(前年同期比)				
		建設	製造	卸・小売	サービス
H 28.08 (n=112)	▲9.9	17.3	▲15.8	▲23.3	▲20.0
H 28.11 (n=120)	▲9.2	0.0	▲2.5	▲23.4	▲15.7
H 29.02 (n=116)	▲18.9	▲3.2	▲28.2	▲29.6	▲10.6
H 29.05 (n=114)	▲17.5	▲16.7	▲13.1	▲30.0	▲6.2
H 29.08 (n=114)	▲5.2	▲3.4	▲5.4	▲19.4	17.7
前回調査比	(12.3)	(13.3)	(7.7)	(10.6)	(23.9)
先行き見通し	▲12.3	▲3.5	▲10.8	▲29.0	0.0
今回調査比	(▲7.1)	(▲0.1)	(▲5.4)	(▲9.6)	(▲17.7)

II. 景気の天気予報図



今期の概況

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

来期の見通し

	秋田県	県北	中央	県南
全業種				
建設				
製造				
卸・小売				
サービス				

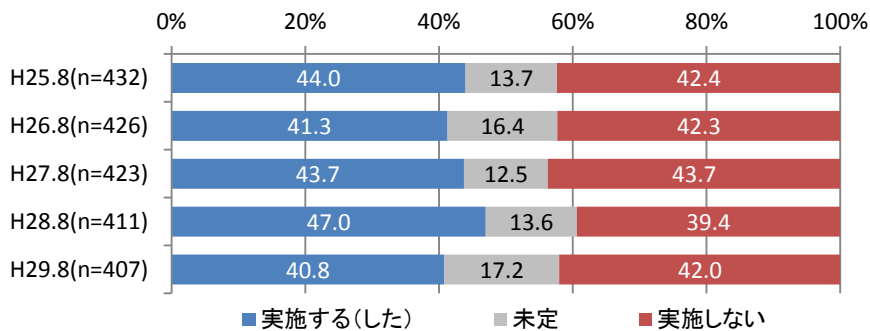


III. 特別調査

1. 設備投資動向

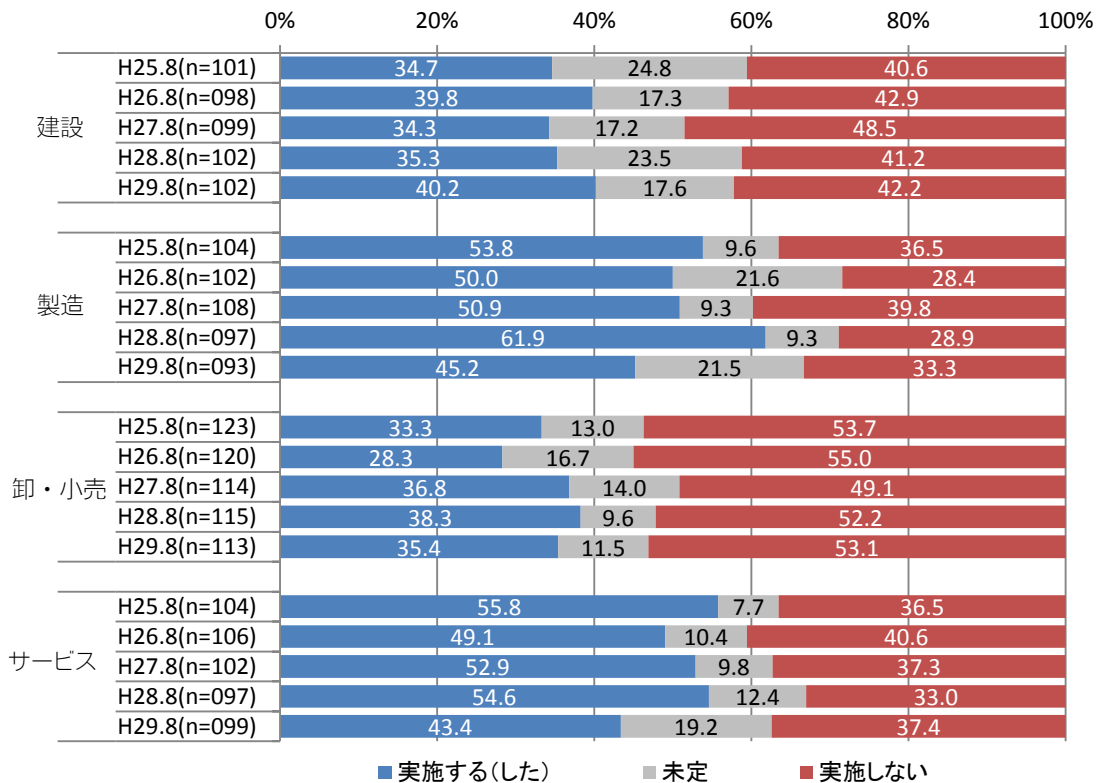
29年度中に設備投資を「実施する(した)」と回答した企業の割合は、40.8%(昨年度比 6.2ポイント低下)と、3年ぶりに低下した。一方、「実施しない」と回答した企業の割合は 42.0%(同 2.6ポイント上昇)となった。

図表 16 「設備投資動向」の推移



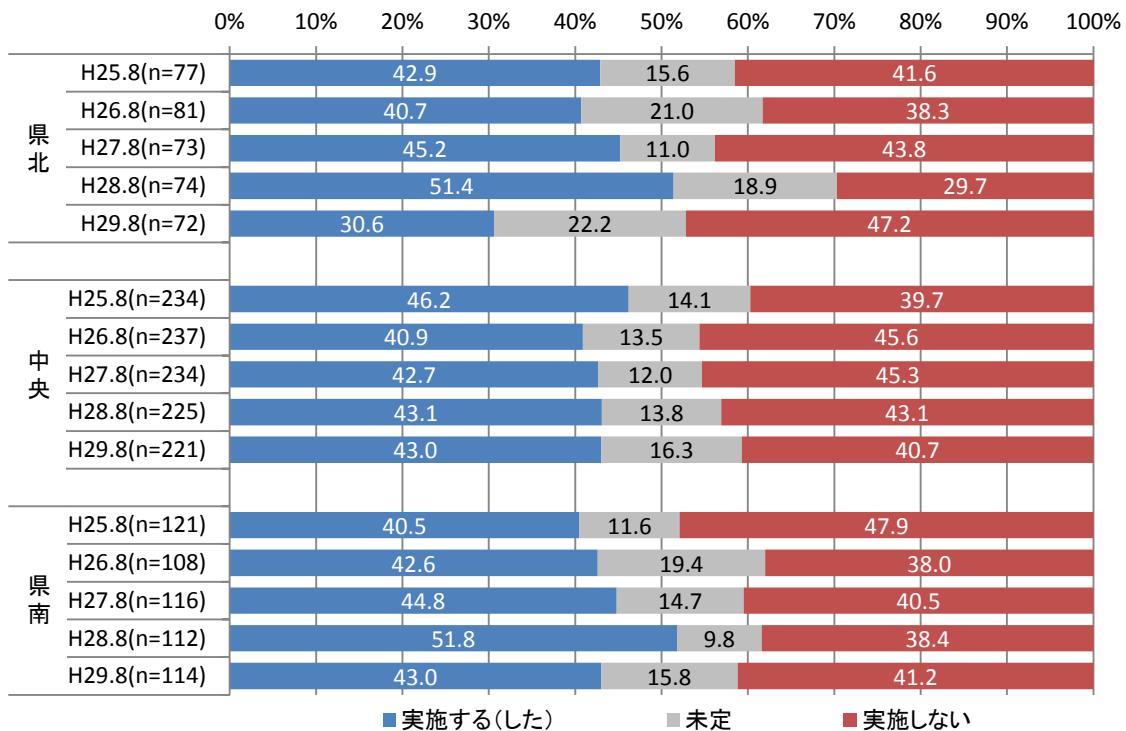
業種別にみると、設備投資を「実施する(した)」と回答した企業の割合は、建設業で上昇したものの、その他の3業種では低下し、中でも製造業では 45.2%(同 16.7ポイント低下)と最も低下幅が大きくなった。

図表 17 業種別「設備投資動向」の推移



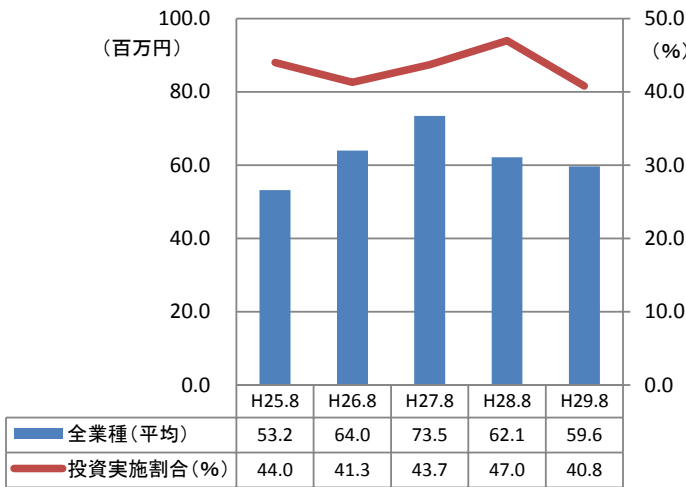
地域別にみると、設備投資を「実施する(した)」と回答した企業の割合は、県北は30.6%(昨年度比20.8ポイント低下)、中央は43.0%(同0.1ポイント低下)、県南は43.0%(同8.8ポイント低下)となり、中央ではほぼ横ばいとなった一方、県北と県南では大幅に低下した。

図表 18 地域別「設備投資動向」の推移



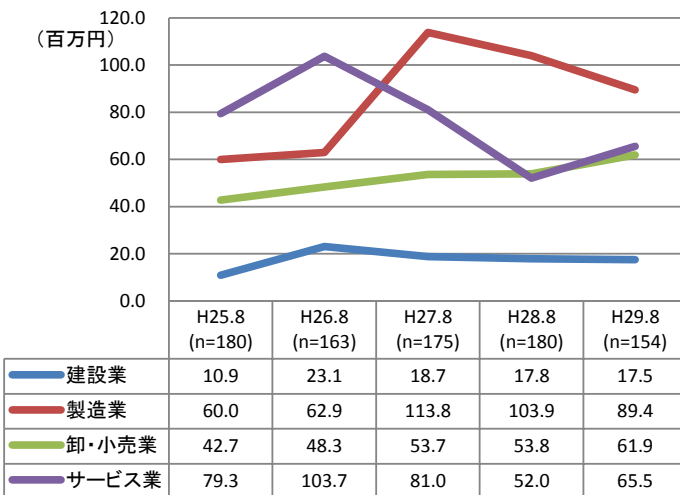
2. 設備投資金額

図表 19 全業種「設備投資金額と実施割合」の推移



設備投資を「実施する(した)」と回答した企業に投資額を尋ねたところ、1社あたり平均投資額(予定含む)は5,960万円で、昨年度の調査時点と比べて小幅ながら250万円減少し、昨年度に続き2期連続での減少となった。

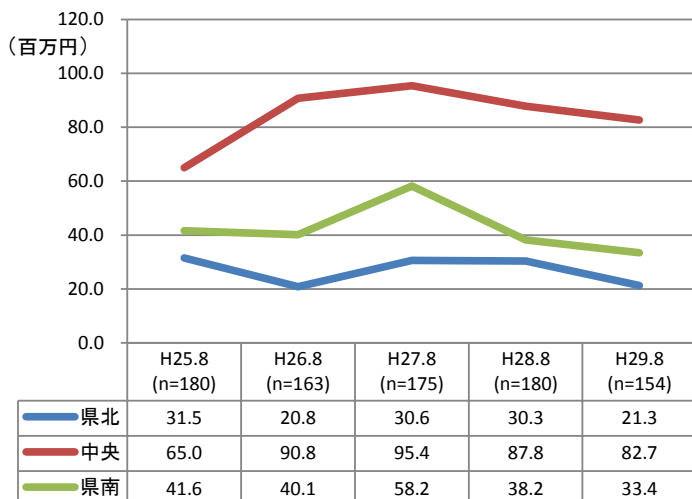
図表 20 業種別「設備投資金額」の推移



投資額を業種別にみると、卸・小売業では6,190万円(昨年度調査比810万円増加)、サービス業では6,550万円(1,350万円増加)と、この2業種で増加となった。卸・小売業では、緩やかながら平成25年度調査から4期連続での増加となっている

一方、建設業では1,750万円(同30万円減少)で3期連続、製造業では8,940万円(同1,450万円減少)で2期連続の減少となった。

図表 21 地域別「設備投資金額」の推移



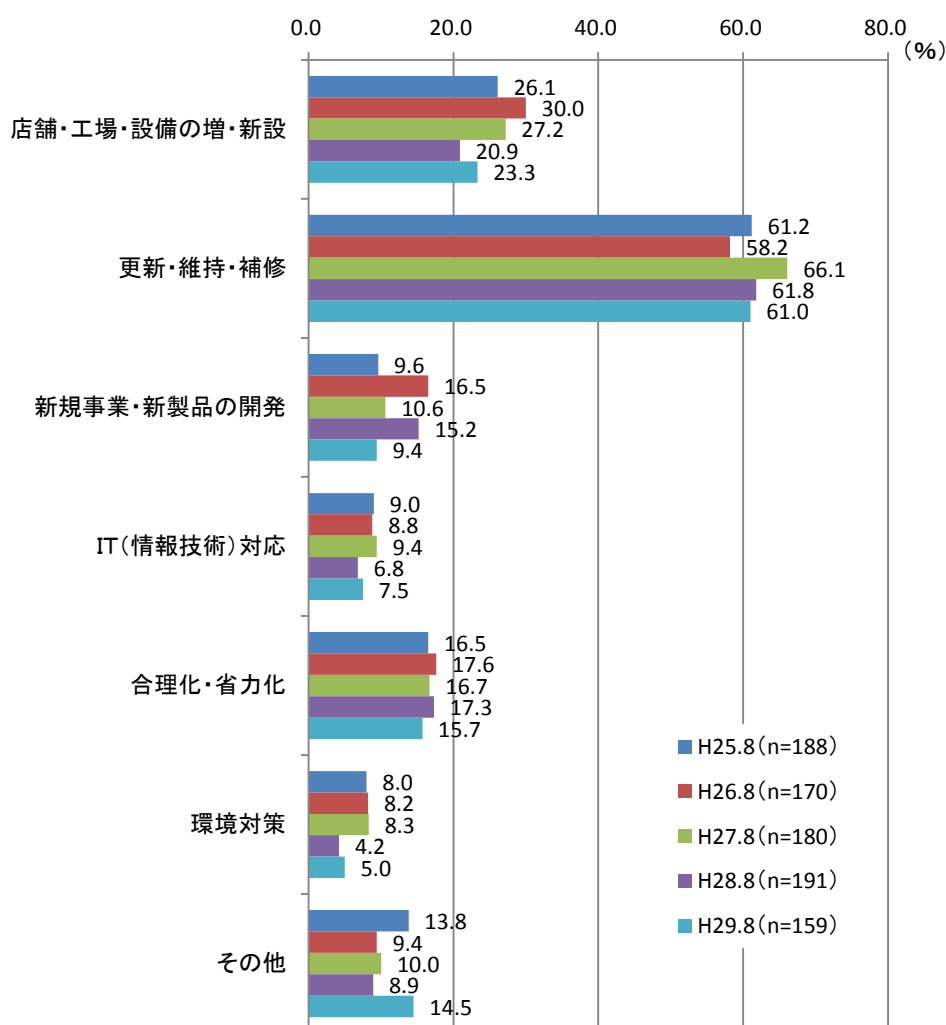
投資額を地域別にみると、すべての地域で減少となった。県北では2,130万円(昨年度調査比900万円減少)、中央では8,270万円(同510万円減少)、県南では3,340万円(同480万円減少)と、いずれも2期連続での減少となった。

3. 設備投資目的

設備投資の主な目的について尋ねたところ(複数回答)、回答した企業の割合が最も高かったのは「更新・維持・補修」の61.0%で、次いで「店舗・工場・設備の増・新設」が23.3%で続き、以下は「合理化・省力化」(15.7%)、「新規事業・新製品の開発」(9.4%)、「IT(情報技術)対応」(7.5%)、「環境対策」(5.0%)の順となり、これまでの調査結果と同様の傾向が見られた。

投資目的別に割合の推移をみると、「店舗・工場・設備の増・新設」「IT(情報技術)対応」「環境対策」の割合が上昇した一方、「更新・維持・補修」「新規事業・新製品の開発」「合理化・省力化」の割合が低下した。

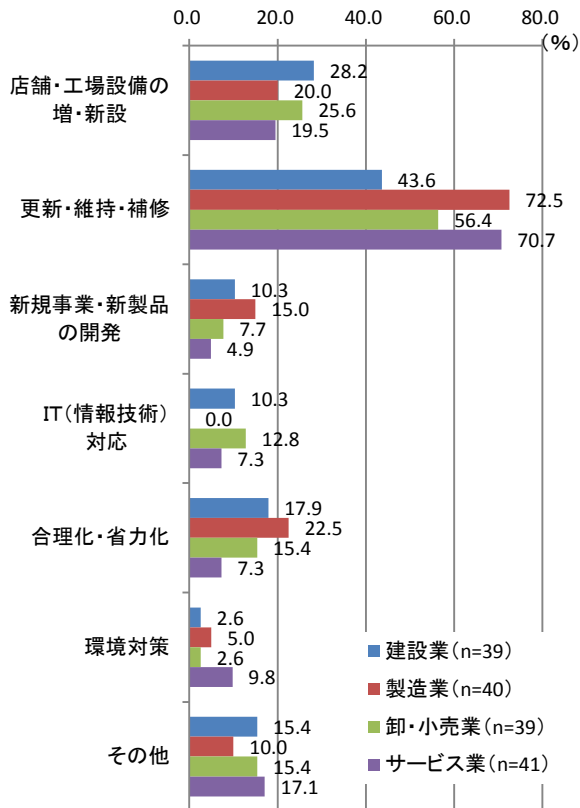
図表 22 「設備投資の目的」の推移(複数回答)



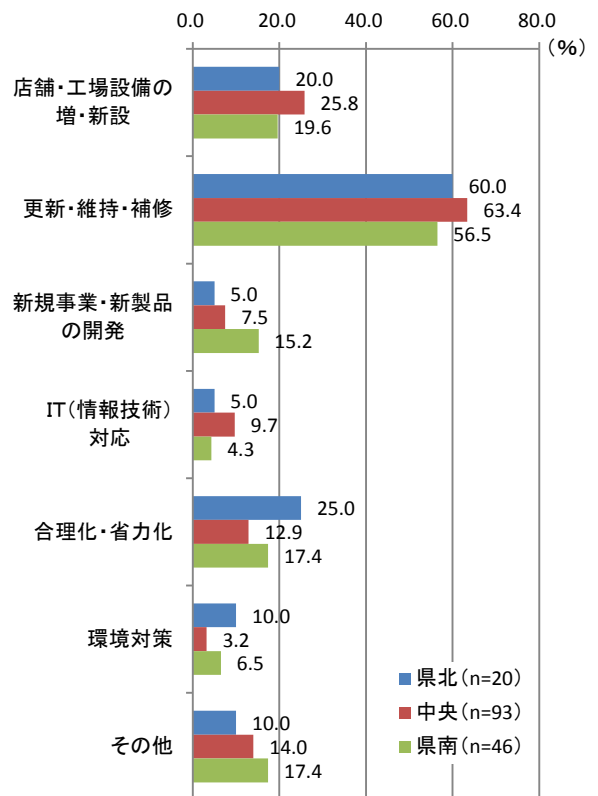
業種別にみると、製造業とサービス業の7割台を始めとして、すべての業種で「更新・維持・補修」と回答した企業の割合が最も高くなっている。これに続く設備投資の目的は、建設業、卸小売業、サービス業ではともに「店舗・工場設備の増・新設」、製造業では「合理化・省力化」となるなど、業種によって違いが見られた。

地域別にみても、すべての地域で「更新・維持・補修」と回答した企業の割合が最も高くなっている。

図表 23 業種別「設備投資の目的」の推移(複数回答)



図表 24 地域別「設備投資の目的」の推移(複数回答)



<参考資料Ⅰ：業種別・地域別回答率>

(サンプル数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	27	26	27	26	106
中央	80	68	96	95	339
県南	41	63	49	34	187
合計	148	157	172	155	632

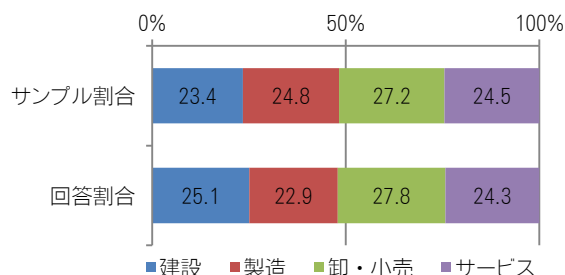
(回答数：社)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	18	18	21	15	72
中央	55	38	61	67	221
県南	29	37	31	17	114
合計	102	93	113	99	407

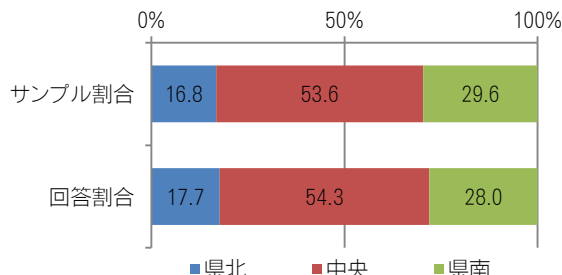
(回答率：%)

	建設	製造	卸・小売	サービス	合計
県北	66.7	69.2	77.8	57.7	67.9
中央	68.8	55.9	63.5	70.5	65.2
県南	70.7	58.7	63.3	50.0	61.0
合計	68.9	59.2	65.7	63.9	64.4

(業種別：%)



(地域別：%)



<参考資料Ⅱ：調査の概要>

● 調査の目的

県内に本社を置いて企業活動を営む法人企業を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、県内の景気動向について把握するために実施した。

● 調査の方法

インターネットを利用したアンケート調査(一部FAXを利用)。

● 調査期間

平成29年8月1日(火)～16日(水)

● 地域区分

地域名	対象となる市町村名
県北	大館市、能代市、北秋田市、鹿角市、三種町、八峰町、小坂町、藤里町、上小阿仁村
中央	秋田市、由利本荘市、潟上市、男鹿市、にかほ市、五城目町、八郎潟町、井川町、大潟村
県南	横手市、大仙市、湯沢市、仙北市、美郷町、羽後町、東成瀬村

● 調査の内容

アンケート調査は、各企業の業況判断について 3 肢択一方式を採っている。毎回必ず調査する「定例調査」と、調査時期にふさわしい経済トピックス等について調査する「特別調査」とを設けている。

項目	選択肢 (択一方式)		
自社の業況(共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
業界の業況(共通項目)	1. 良い	2. さほど変わらない	3. 悪い
売上高(建設業を除く)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
完成工事高(建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
営業利益(共通項目)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
人員や人手(共通項目)	1. 足りない	2. ちょうどよい	3. 余っている
資金繰り(共通項目)	1. 楽になった	2. さほど変わらない	3. 厳しい
原材料等の仕入価格(製造業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
製(商)品の仕入価格(卸・小売業のみ)	1. 下がった	2. さほど変わらない	3. 上がった
在庫状況(製造業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った
手持工事高(建設業)	1. 増えた	2. さほど変わらない	3. 減った

(注)各項目とも「前年同期比」、「前期比」、「来期の見通し」について、それぞれ 3 肢択一方式を採っている。

● 集計方法

各項目とも、現状判断、先行き見通しについてそれぞれ D I 値を算出する。D I 値とは、Diffusion Index(ディフュージョン・インデックス)の略で、算出方法は次の通り。

例)自社の業況 D I 値

$$= (\text{「1. 良い」と回答した企業の割合}) - (\text{「3. 悪い」と回答した企業の割合})$$

たとえば「自社の業況 D I 値」がプラスであれば、相対的に自社の業況が良いと判断した企業が多いことになる。また、業況の変化の方向(良くなっているか、悪くなっているか)についても分かる。

ちなみに、他の D I 値についても同様に、選択肢「1. 」(「調査の内容」の「選択肢」欄をご参照のこと)を選んだ企業の割合から選択肢「3. 」を選んだ企業の割合を差し引いて算出する。

<お知らせ>

F S N 会員専用ホームページ(<http://www.bb-town.jp/cgi-bin/fsn.cgi>)にアクセスすると、統計データの最新版をダウンロードすることができます。こちらも是非ご利用ください。なお、過去の調査レポートや統計データは当社ホームページ(<http://www.f-ric.co.jp/>)「調査レポート」コーナーからダウンロードすることができます。

<お問い合わせ先>

株式会社フィデア総合研究所 地域コンサルティンググループ 後藤(秋田本部)／佐藤(秋田本部)

・秋田本部

〒010-0001 秋田県秋田市中通 3-1-41 北都銀行本店 6F

TEL : 018-837-1727 Fax : 023-834-5508

・山形本社

〒990-0043 山形県山形市本町 1-4-21 荘銀山形ビル 8F

TEL : 023-626-9017 Fax : 023-626-9038 E-mail : kenkyuu@f-ric.co.jp

URL : <http://www.f-ric.co.jp>